

文化財発掘Ⅱ

—京大キャンパスの弥生時代—

京都大学総合博物館
平成27年度特別展



関連講演会

第1回

「弥生時代の土器と木製品

—米食のはじまりと、暮らしを支えた道具たち—

3月26日（土）10：00～11：30

村上由美子（総合博物館）・妹尾祐介（金沢大学埋蔵文化財センター）

第2回

「京都大学キャンパスの弥生時代—水田・洪水・墓—」

（展示解説もおこないます）

4月2日（土）10：00～11：30

伊藤淳史（文化財総合研究センター）・富井 眞（文化財総合研究センター）

*会場はいずれも総合博物館本館3階講演室

*無料・申し込み不要（ただし、博物館への入館料は必要）

2016年 2月10日[水]—4月17日[日]

9時30分—16時30分（入館は16時まで）

休館日：月曜日・火曜日（平日・祝日にかかわらず）

観覧料：一般400円 高校生・大学生300円 小学生・中学生200円

*20名以上の場合は団体観覧料が適用されます。

*身体障害者手帳をお持ちの方とその付き添いの方1名、70歳以上の方は無料

主 催：京都大学総合博物館・京都大学文化財総合研究センター



京都大学総合博物館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL(075)753-3272 <http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>

文化財発掘Ⅱ

—京大キャンパスの弥生時代—

京都大学文化財総合研究センターは、大学構内の地中に眠る埋蔵文化財を中心に、その調査・分析から保管・活用に至るまで、総合的な研究を実践しています。前身の埋蔵文化財研究センター時代を含め、35年以上にわたって延べ100,000㎡におよぶ埋蔵文化財の発掘調査をおこなってきました。

今回の特別展では、吉田キャンパスで見つかった弥生時代遺跡の発掘調査成果を展示します。およそ2400年前の前期の水田跡は、洪水による厚い砂の堆積にそのまま埋もれて見つかり、周囲の地形とともに良く残されていました。稲作がはじまっただころの耕作の姿を具体的に伝える、貴重な事例と言えます。

また、水田を廃絶させた洪水層の上には、方形周溝墓（方形に溝で区画した墓）が築かれていました。水田から300年ほど後の中期後半の墓からは、周辺の各地域の特徴を示すさまざまな形や文様をもつ土器が出土し、意図的に穿孔されたものもみられます。当時の人々の交流範囲や葬送観念をうかがうことのできる、非常に興味深い内容の資料群です。

日々先端的教育・研究がおこなわれている京都大学キャンパスにも、このように地域の歴史を解き明かす上で重要な埋蔵文化財があることを知っていただき、過去に思いを馳せる機会となれば幸いです。



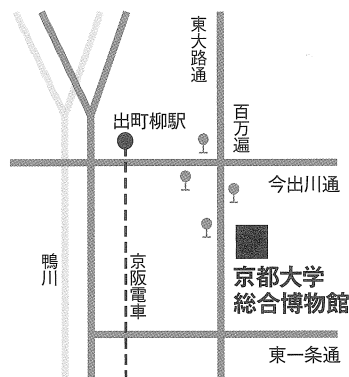
弥生前期の土器（吉田南構内出土）



弥生前期の水田遺構（吉田南構内）



水田遺構の調査風景



京都大学総合博物館

〒606-8501
京都市左京区吉田本町
TEL (075)753-3272
FAX (075)753-3277
info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp
<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/>

交通機関

- 市バス JR / 近鉄京都駅から17・206系統、阪急河原町駅から3・17・31・201系統、地下鉄烏丸線今出川駅から201・203系統、地下鉄東西線東山駅から31・201・206系統、「百万遍（ひやくまんべん）」下車徒歩約2分
- 京阪「出町柳」駅下車徒歩約15分

※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。